

ユリカが当たるクイズ付

ディガー

No. 13

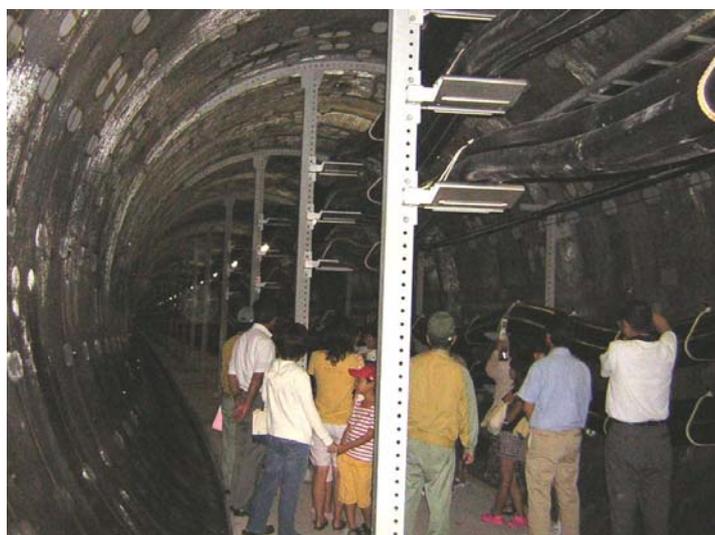


名古屋市道路占用調整協議会ニュース

「道路ふれあい月間」夏休み親子見学会を開催しました！ 多数のご応募ありがとうございました。



▲熱心に説明を聞く見学者



▲ 直径4.8mの洞道内

平成21年8月20日（木）に中部電力株式会社のご協力をいただき同社名城変電所において見学会を開催しました。当日は、ディガー12号やホームページでの募集を見て応募された親子22組、61名に参加いただきました。

中部電力の職員の方から変電所の説明を受けた後、施設を見学しました。

参加された方からは、

- ・普段入ることができない所なので、特に興味深かった。
- ・地下トンネルが大きくて涼しかった。
- ・また見学会があれば参加したい。

など多くの感想をいただきました。

今回の見学会に対しては、多数のご応募をいただき、ありがとうございました。

名古屋市道路占用調整協議会では、今後も見学会などを実施し、積極的な広報活動に努めてまいります。

「ディガー」って？

digは、英語で地面を「掘り起こす」意味です。そして、diggerは、「掘る人（機械）」を意味しています。

ライフライン topics

集中豪雨に備えて

名古屋市上下水道局

平成12年9月の東海豪雨・平成16年9月の集中豪雨を受けて、著しい浸水被害のあった地域において「緊急雨水整備基本計画」を策定し、浸水対策を進めてきました。この対策を進める中、平成20年8月末に再び集中豪雨に襲われ、市内各所で甚大な浸水被害に見舞われました。これを受け、「緊急雨水整備基本計画(後期事業)」の一部を見直すとともに、新たに「第2次緊急雨水整備計画」を策定し、今年度から概ね10年間の期間で雨水貯留施設等の工事を実施していきます。

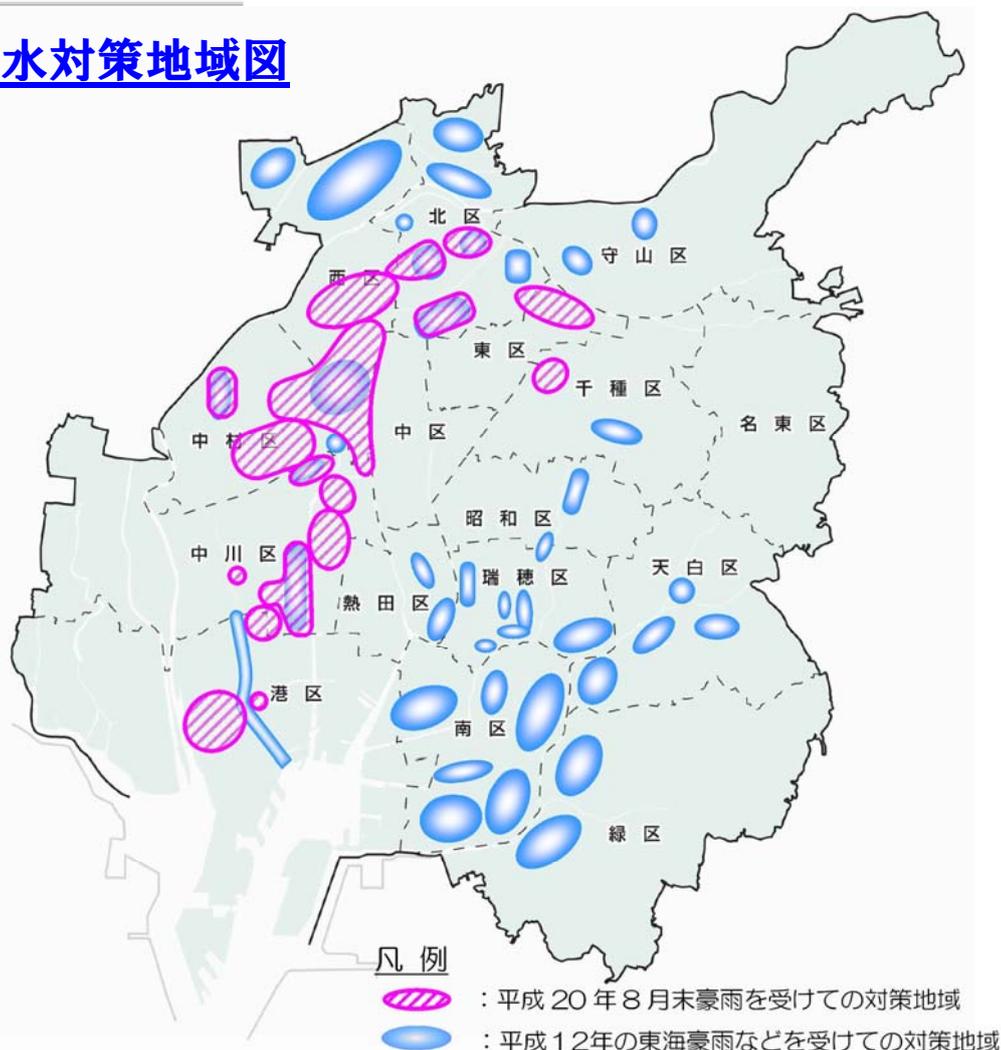
雨水貯留施設は、豪雨時に一時的に雨水を貯留することで、浸水被害を軽減する施設です。道路下には直径が3mを超えるような大口径の管タイプのものもあります。なお、貯留施設に貯めた雨水は、降雨後、排水先の河川等の水位が下がったことを確認したうえで、ポンプ等により排水し、次の豪雨に備えています。

こうした施設を設置するため、工事を実施する地域の皆様方には、工事による渋滞等ご迷惑をおかけすることとなると思いますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、「緊急的な雨水整備計画」の詳細については、上下水道局ホームページをご覧ください。

(上下水道局ホームページ <http://www.water.city.nagoya.jp/>)

緊急雨水対策地域図



大地震等、緊急時に備えて

東邦ガス株式会社

道路に埋設されているガス管は地震に備えて、順次「耐震管」に入替えています。幹線ルートには、緊急遮断バルブ装置が取り付けられています。

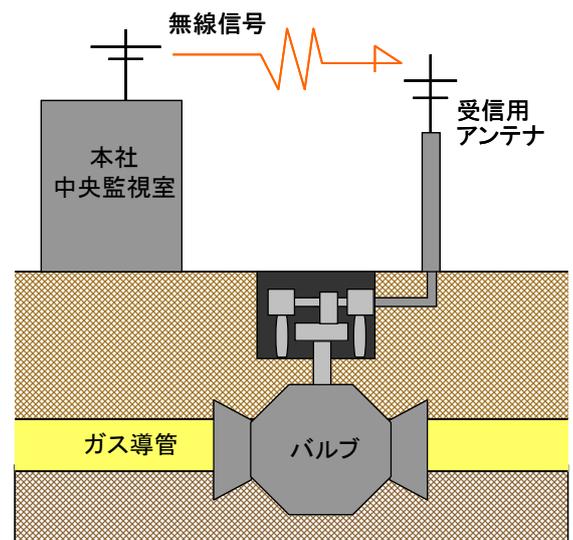
これは、地震発生時にガス漏れによる二次災害の発生を防ぐため、被害が集中した区域の手前で緊急遮断バルブを閉じてガスを止めるためのものです。

これらの操作は迅速に行う必要があるため、本社中央監視室から無線で閉止命令信号を発信し遠隔操作します。

再開は現地を確認したうえ人力で行います。

この装置は昭和50年代から本格導入が始まり、現在市内には遠隔操作できる緊急遮断バルブ装置は約60基あります。

当社では、緊急時に備えて万全の安全対策を施し、安心してガスをお使いいただけるよう努めています。



▲遠隔操作によるバルブ閉止

地下鉄桜通線延伸工事のレール搬入が進んでいます！

名古屋市交通局

地下鉄桜通線の延伸工事は、平成18年2月に始まって3年半余り、順調に進んでいます。4つの駅と地下車庫の構造物ができ上がり、駅と駅間のトンネル工事もほとんどできあがっています。

そして、軌道工事に使用するレールをトンネル内に搬入する作業を平成20年2月から進めています。

レールは1本の長さが25mと長いので、製造工場から名古屋港までは船で、名古屋港から現場までは深夜にトレーラーで運び、地下への搬入は一部を除き、昼間に行ないます。

搬入作業は、鋼矢板といわれる溝の形をした鉄板をレール搬入用斜路として滑り台のように設置し、レールを1本ずつ地上から地下のトンネル内にゆっくりと滑り降ろします。

地下では、搬入したレールをレール運搬車を使って、一時的に保管する場所に運搬します。この保管の間も、レールが曲がったり、キズがついたりしないよう、置き方に十分注意を払っています。



▲トレーラーによる夜間運搬



▲レール搬入用斜路(地上の様子)



▲地下のレール保管状況

レールの搬入作業に続き、いよいよ、まくらぎを並べレールを敷くといった本格的な軌道工事が始まります。平成22年度の開業を目指して工事を進めていきますので、今後とも、桜通線の延伸工事にご協力をお願いいたします。



地下鉄の各路線の色は・・・。



▲現在の東山線の車両

昭和32年11月に開業した東山線・名古屋～栄町間の車体の色を、暗い地下でも明るく映えるようにと、画家の故杉本健吉氏に「ウインザーイエロー」に決めていただきました。この車体の黄色が東山線の色として現在に至っています。

昭和40年10月に名城線・市役所～栄間が開業した時は、車両は東山線と同じ黄色の車体としましたが、お客様が乗り換え時に東山線と区別しやすいように、紫色の帯を車体の周囲につけました。この紫色が名城線の色となり、名城線に接続する名港線にも採用されています。

この車体の周囲に帯をつけるというデザインは、その後も引継がれ、東山線や名城線・名港線の車両が、冷房化に伴って無塗装のステンレス車体となった際にも、それぞれの色の帯がつけられました。

そして、その後に開業した路線については、他の路線と区別するため、鶴舞線は「青」、桜通線は「赤」、上飯田線は「桃」の帯を、ステンレス車体の周囲につけています。

それぞれの色は路線案内図等にも用いられ、皆様に親しまれています。

モグくんのクイズコーナー

問題 今号をよく読んで、次の3つの文章のうち正しいものを1つ選んで下さい。

- ①上下水道局では、「第2次緊急雨水整備計画」を策定している。
- ②ガス管には遠隔操作できる緊急遮断バルブが取り付けられてない。
- ③地下鉄のレールは昼間にトレーラーで運んでいる。



答えを、今号の感想や質問と一緒に下記の事務局まで、はがき・FAX・Eメールでお送り下さい。正解者の中から、抽選で5名の方にユリカ1000円分をプレゼントします。(平成22年1月31日必着)
当選者の発表は発送に替えさせていただきます。

編集後記

第12号のクイズの正解は③でした。

32名のご応募をいただき、抽選の結果5名の方にユリカをお送りしました。▼今回も貴重なご意見やご質問等が寄せられました。今後の紙面に反映していきたいと思えます。▼クイズの回答ともども、皆様からのたくさんのご意見やご質問をお待ちしております。

次号は平成22年3月1日発行予定です。お楽しみに！！

発行日 平成21年11月1日

編集・発行 名古屋市道路占用調整協議会（事務局 名古屋市緑政土木局道路部道路管理課）

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

TEL (052) 972-2851 FAX (052) 972-4167

ホームページアドレス <http://www.nagoya-dourokouji.jp> E-mail dourokanri@rd.city.nagoya.lg.jp

名古屋市道路占用調整協議会は、道路工事の計画、工事の手順、方法などを調整する機関です。

名古屋市、国土交通省、愛知県警察本部、名古屋高速道路公社、名古屋市上下水道局、名古屋市交通局、西日本電信電話株式会社、中部電力株式会社、東邦ガス株式会社などで構成されています。